

一般社団法人 日本ヘルスケア歯科学会

健康を守り育てる診療所  
認証申請書

申請日 年 月 日

申請者 \_\_\_\_\_

■ 申請のあった診療所には、『患者アンケート』一定期間を限って実施していただきます。

フリガナ 1-1. 医療法人名	1-3. 診療所郵便番号
フリガナ 1-2. 診療所名	1-4. 診療所住所
1-6. 開設年月日 年 月	1-5. 診療所電話番号 — —

2-1. 医療機関の責任者名および会員番号 No.	2-2. メールアドレス
2-3. 卒業大学	2-4. 卒業年度 年度
2-5. 臨床歴 大学等医局員として 年 + 勤務医として 年 + 診療所責任者として 年 = 合計 年	
2-6. 所属学会（当学会以外） _____ _____ _____	2-7. 学校歯科医歴（例：〇〇小学校 〇〇年など） _____ _____
	2-8. 地域医療活動歴

## ■ 現在の診療所の概況

3-1. 診療ユニット数 台 区別のある場合： ドクター用 台 +DH用 台 + その他 台	3-2. 現在使用中の臨床データ集計用ソフト名（使用開始年）  ( 年本格使用開始)
3-3. 歯科医師数（本人を含む） 常勤 人 / パートタイム 人	3-4. 歯科衛生士数 常勤 人 / パートタイム 人
3-5. 歯科技工士数 常勤 人 / パートタイム 人	3-6. 受付スタッフ数 常勤 人 / パートタイム 人
3-7. 歯科助手 常勤 人 / パートタイム 人	3-8. 上記以外のサポートスタッフ数 常勤 人 / パートタイム 人

※現況を記載してください。過去からの経歴は不要

■ 開業以来の総カルテ概数 (破棄しているカルテを含む)

約  枚

■ 予防ケア・メンテナンス率

直近の12カ月

- ① 年間予防ケア・メンテナンス来院者比率
- 分子  
= メンテナンス行為を行なった人数
- 分母  
= 保険レセプト枚数  
(+ 自費のみの来院者数)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計

12カ月の平均値  %  
小数点1位まで

- ② 3年後メンテナンス移行比率

分子

= 分母の患者のうちメンテナンス行為を行なっている人数 ( 年1月～12月 )

分母

= 3年前の1年間の純初診患者数 ( 年1月～12月 )

=  %  
小数点1位まで

分母は、すべての純初診患者で、急患、無歯顎などあらゆる事情のある患者、転居、死亡した場合も含まれます。

分子は、その純初診患者のうち、メンテナンス行為を行なった人数 (期間中1度でも)。

この1年にメンテナンス目的で来院していても、メンテナンス行為をしていなければカウントしません。

また、通院が2年空いたとしても、この期間内に1度でもメンテナンス行為をしていればカウントします。

補綴処置が終わっていない場合でも、メンテナンス行為をしていれば含まれます。

2年に1度のメンテナンス期間を設定していたために、この期間にメンテナンス行為をしていない場合は、含みません。

あくまでも、この期間に「メンテナンス行為」をした人数です。

■ メンテナンス診療時に定型的に行うこと

- (例) 乳歯列:  染め出し  清掃研磨  TBI  \_\_\_\_\_  
( )  \_\_\_\_\_  \_\_\_\_\_  \_\_\_\_\_  \_\_\_\_\_
- (例) 混合歯列:  染め出し  清掃研磨  TBI  \_\_\_\_\_  
( )  \_\_\_\_\_  \_\_\_\_\_  \_\_\_\_\_  \_\_\_\_\_
- (例) 永久歯列:  染め出し  清掃研磨  TBI  \_\_\_\_\_  
( )  \_\_\_\_\_  \_\_\_\_\_  \_\_\_\_\_  \_\_\_\_\_
- ( )  \_\_\_\_\_  \_\_\_\_\_  \_\_\_\_\_  \_\_\_\_\_

■ メンテナンスへの移行基準 (基準を設けていない場合は「なし」と記載)

小児: \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

成人: \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

■ 規格性のある口腔内写真の撮影状況

規格と撮影時期、頻度など（例：初診時すべての患者につき乳歯 3 枚、混合歯列 3 枚 + 6 番の萌出本数分、永久歯 13 枚）

---



---

■ 歯周精密検査の有無と内容

例：16 歳以上に実地：ポケット、BOP、PCR(6 点法)、リセッション、動揺度、根分岐部、角化歯肉量

---



---

■ エックス線の撮影状況

時期、撮影時期、頻度など（例：初診時にパントモ、歯周検査時に口内法エックス線写真 10 枚）

---



---

■ 疾病リスク評価の基本的な考え方

・問診、視診、触診によるリスク評価は、疾病の診査／診断とともに、通常すべての患者さんにされていると思われませんが、唾液を用いた細菌数簡易検査やポケットプロービング検査などの実診療所における実施基準がある場合はご記入ください。

(年齢、主訴、希望、疾病履歴、条件などによる対象者のカテゴリと通常ルーチンに行うリスク検査)

<例> 対象者（3 歳以上 18 歳未満、う蝕履歴あり）

検査；う蝕原性菌数簡易検査、唾液緩衝能検査など

<例> 対象者（14 歳以上、歯肉出血のある者、35 歳以上全員）

検査；歯周組織基本検査

対象者	検査
対象者	検査
対象者	検査
対象者	検査

■ 口腔内写真を使った患者さんのお口の状態の説明は？

ほぼすべての患者
  特定の患者（どのような）を除いて
  特定の患者（どのような）のみ  
 ( ) ( )

■ "知らない"を"知っている"に、いつ、どのような方法で

「歯科疾患の予防は適切なセルフケアとプロフェッショナルケアによって容易に達成できること」を「いつ」「どのように」伝えていきますか。

いつ・・・ どのように・・・

---

いつ・・・ どのように・・・

---

いつ・・・ どのように・・・

---

いつ・・・ どのように・・・

---